

<p>12月2日 木</p>	<p>13:30 ～ 14:30</p>	<p>伊都薬剤師会出前講座 橋本市 光陽台老人クラブ テーマ「薬の正しい使い方」 講師：ボンサンテ薬局 村木薬剤師 参加者 13名</p> <p>薬の正しい使い方について、種類別（内服、外用など）内服の方法、塗り薬・目薬の使い方、など詳しく説明していただきました。また、粉末、錠剤、目薬、シロップ剤、の正しい使い方を丁寧に話していただきました。</p> <p>参加者からの質問に村木先生は「個人差はありますが、5～10種類以上のたくさんの薬を服用され続けることで、相互反応が起こることもありますので、医師に相談し止めれる薬はやめたほうが、体を壊さずに元気になれる方もいる。」とポリファーマシーや自然治癒力についても語られていました。薬の飲み忘れや、自宅に残った薬のことなど、もっと気軽に薬剤師に相談してくださいとのことでした。追加でお薬手帳の1冊まとめについて説明された時には、「何冊も持つてる」と自白され、1冊にまとめることのメリットを理解いただけたのではと感じました。</p> 
<p>12月23日 水</p>	<p>14:00 ～ 16:00</p>	<p>橋本保健医療圏難病対策地域協議会 神経難病支援ネットワークづくり研修会</p> <div style="border: 1px solid red; padding: 5px;"> <p>「神経難病の医療について～告知から延命治療の意思決定支援まで～」 紀北分院 脳神経内科 中西一郎先生</p> <p>「神経難病患者のACPについて考える～意思決定に必要な支援～」 紀北分院 森本衣里難病看護師</p> </div> <p>会場：橋本保健所 2F</p> <p>新型コロナウイルス感染症対策として、出席者を25名までで開催されました。</p> <p>中西先生は、残された命だけを考えるのではなく、その後の人生を考えて話し合うことが必要だといわれていました。</p> <p>どのような疾患の患者様でも、関係づくりあつての意思決定支援です。</p> <p>医療従事者と患者様の関係も、説明と同意の上下関係でなく、「合意」に基づくものであること。</p> <p>病院関係者だけで意思決定支援が成立するのではなく、関係者が持ち寄った情報が貴重。</p> <p>その人が、自分らしく残された人生をどう生きるかを決めるキーワードが在宅には沢山あること。</p> <p>在宅の関係者が意思決定支援ができること、まずは病院関係者との連携強化をしていきたいと思えます。</p> 